

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目： 若手研究(B)

研究期間：2007～2009

課題番号： 19760446

研究課題名(和文) 近世京都の祭礼に関する都市史的研究

研究課題名(英文) An Urban Historical Study of the Early Modern Festival in Kyoto

研究代表者

岸 泰子 (KISHI YASUKO)

京都大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号：60378817

研究成果の概要(和文):

本研究は、都市祭礼に関わる朝廷・神社・町の動向に着目し、近世京都の都市祭礼の様相とその空間特性を明らかにするものである。

天皇・朝廷が関わる都市祭礼、特に御霊社祭礼では、権力者(天皇)と被権力者(神社・町)の構図を示す空間が演出・形成されていた。また、朝廷が発令する触穢令下において、自社の論理を用いることで神事や都市祭礼を行おうとする神社もあった。このように、朝廷・神社・町にとって、近世京都の都市祭礼はそれぞれの存在を示すための重要な要素であったことが確認できた。

研究成果の概要(英文):

This research shows the characteristic aspect and the space characteristic of early modern festival in Kyoto.

In the case of the festival which the imperial court was involved in, especially in the case of *Goryo shrine*'s festival, a space that the balance of power between the Emperor and shrines/towns) was revealed was created. And, some shrines tried to do shrine ritual and festival through own logic under *Shokue ban* given by the imperial court. In this way, the early modern festival in Kyoto was an important component of the offering one's (the imperial court, shrine, town) presence.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	0	1,500,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	510,000	3,710,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：都市史、京都、近世、祭礼、天皇、朝廷、神社、町

## 1. 研究開始当初の背景

近世京都には、禁裏御所から建物を下賜され社殿とする神社や町に居住する御用商人や公家など、日常的に朝廷と関わる要素が多数存在する。よって、近世京都の都市社会構造や空間特性を考える上で、天皇・朝廷のありかたは重要な論点となる。このような問題意識に基づき、研究代表者は、禁裏御所を中心とした近世京都の都市空間の特性を解明するため、朝廷・禁裏御所の動向に着目してきた。そして、近世京都においては、朝廷が神社神事や都市祭礼に深く関与する事例が多数あることが分かってきた。

しかし、その様相については、先行研究において十分に解明されているとは言い難い。

近世京都の都市祭礼に関する先行研究には、概論をまとめた『京都の歴史』(京都市編、学芸書林、1970-76年)があるが、祇園会以外の祭礼に関しては言及がほとんどない。また、近世京都の都市祭礼に関する考察としては、風流踊に着目した河内将芳の研究(参考文献1)や祇園会における町代の役割を考察した村井康彦の研究(参考文献2)があるが、祇園会や豊国社の祭礼を除き詳細な研究が行われていない。なお、祇園会に関する研究は多いが、そのほとんどが中世後期・戦国期を対象としている(参考文献3)。さらに、建築・都市史学の分野では、権力者と祭礼の関係に着目し城下町の空間特性を指摘した久留島浩の研究(参考文献4)があるが、京都の都市祭礼についての言及はなく、同分野での研究蓄積は極めて少ない。

このように、近世京都の都市祭礼に関する先行研究そのものが少なく、神社・町との関係など明らかにすべき課題は多いといえる。

### 参考文献

〔1〕河内将芳「十六世紀における京都「町衆」の風流「踊」」『芸能史研究』130、1995年7月。

〔2〕村井康彦「近世京都の支配と神事 - 『京都町触集成』にみる祇園会」京都町触研究会編『京都町触の研究』岩波書店、1996年。

〔3〕瀬田勝哉「中世の祇園御霊会 - 大政所御旅所と馬上役制」『洛中洛外の群像 失われた中世京都へ』、平凡社、1994年。脇田晴子『中世京都と祇園会 - 疫神と都市の生活 - 』、中公新書、1999年。河内将芳「戦国期祇園会に関する基礎的考察」『史林』85-5、2002年8月。河内将芳「戦国期祇園会の神輿渡御について」『研究紀要(財団法人 世界人権問題研究センター)』8、2003年。河内将

芳「室町期祇園会に関する一考察」『ヒストリア』191、2004年9月。

〔4〕久留島浩「祭礼の空間構造」高橋康夫・吉田伸之『日本都市史入門』東大出版会、1989年。久留島浩「近世における祭りの「周辺」」、『歴史評論』439、1986年。

## 2. 研究の目的

本研究は、朝廷と都市祭礼の関係や都市祭礼に関わる町や神社のありかたを解明することで近世京都の都市祭礼の様相とその特徴を明らかにするとともに、都市祭礼を通じて近世京都の都市社会・空間の特性を都市史的観点から考察することを目的とする。

### (1) 都市祭礼に対する朝廷の対応

朝廷が関与する都市祭礼の事例を検討し、朝廷の都市祭礼への対応を明らかにする。

### (2) 祭礼にかかわる町・町人の対応と役割

氏子を中心とした町人や町の祭礼への参加事例を検討し、京都の都市祭礼における町人・町の役割を明らかにする。

### (3) 祭礼時にみる神社の動向

祭礼を主催する神社の対応を確認し、朝廷や町との対応とあわせて近世京都の都市祭礼の特色をより明確にする。

### (4) 祭礼儀式や祭礼行列からみる近世京都の都市空間の特徴

祭礼儀式や行列が行われる場の特性に着目し、その空間の特徴を明らかにする。あわせてそれらの特徴から禁裏御所を中心とした近世京都の都市空間の特性を導きだすことを試みる。

### (5) 城下町を含めた他の近世都市祭礼との比較研究

近世京都の祭礼の特色をより明確にするために、江戸や他の城下町や近世都市における祭礼の事例と比較検討する。

なお、前述のとおり、近世京都の都市祭礼に関する研究はほとんどない。さらに、民俗学や建築計画の分野において、現代の祭礼に関する調査が行われているが、古文書や公家の日記等の文献史料を成果に取り入れたものはほとんどない。さらに、日本史学の分野では先述したように祇園会など一部の祭礼の特徴が明らかになっているものもあるが、その空間特性にまで言及した研究はない。

従って、幅広い分野の文献史料を用い、都市社会(朝廷・神社・町・町人)の諸要素に着目し近世京都の祭礼の実態とその空間特性を明らかにしようとする点に本研究の独創性がある。さらに、建築・都市史学の分野で

は、江戸の祭礼に関する研究はあるが、近世京都の祭礼に関する研究の蓄積は全くない。従って、都市史的観点から京都の祭礼の様相の解明に重点をあて、加えて他都市の祭礼や空間と比較検討することで、近世京都の都市全体の空間特性にまで言及しようとした点に本研究の特色がある。

### 3. 研究の方法

主に朝廷との関わりの深い祇園社や御霊社、朝廷・町・神社の記録が残る上・下賀茂社や今宮社、北野社、さらには必要に応じて洛外の神社の祭礼も研究対象とする。

#### (1) 先行研究の整理

近世京都の祭礼の実態を明らかにするための基礎的作業として、地誌や各神社の社史、編纂資料等を蒐集し、分析する。あわせて、関連する文献を蒐集し、研究状況をより明らかにする。

#### (2) 祭礼開催に関する朝廷の動向の分析

公家の日記等の文献史料を緻密に分析し、祭礼開催時の朝廷・幕府の動向を整理・分析する。また、近世全般の史料を分析することで、祭礼の性質や朝廷の対応の変化についても明らかにする。

#### (3) 祭礼にかかわる神社・町・町人の動向の特性の解明

町や神社に残る文献史料から、祭礼時の神社の対応や町・町人の動向に着目し、祭礼に取り組む神社の理念や町・町人のかかわりについて分析する。また、町人地に住居がある公家や地下官人も祭礼に関わっているため、日記等に祭礼の記述が確認できる場合がある。よって、公家の日記等からも神社・町の動向を確認する。

#### (4) 他都市で行われる祭礼との比較研究

近世京都における祭礼と都市空間・都市社会との関係の特性をより明らかにするために、他都市で開催される祭礼との比較研究を行う。

#### (5) 研究支援データベースの構築

参考文献・資料・史料・指図・絵画史料の収集とデータ入力を行う。また、これまで禁裏御所を中心とした近世京都の空間的特性を明らかにするために行ってきた史料調査をもとに近世全般の公家の日記等に関するデータベースを構築してきたが、祭礼に関する本研究での成果も加えることで、神社や町の記録を加えたさらに充実したデータベースを作成する。

なお、上記の点を詳細に検討するために、宮内庁書陵部や東京大学史料編纂部が所蔵する公家・神社の日記・記録をはじめ、京都府立総合資料館や京都市歴史資料館が所蔵する町の文書、さらには寺社の史料、各研究

機関・都道府県資料館が所蔵する文書などの文献史料を活用する。

さらには、都市祭礼や氏子町・門前町の現地調査を行い、都市・建築史的視点からの解析も積極的に活用する。

### 4. 研究成果

#### (1) 近世京都の都市祭礼の事例整理

近世京都において開催された祭礼(行列を含む)の開催日時、場所、参加者、式次第等に関する史料(神社所蔵史料、町文書、公家日記など)を収集し、整理を行った。また、中世京都の祭礼に関する史料収集も並行して行った。さらに、近世京都の都市祭礼の特徴を明らかにするために、他都市の祭礼や氏子町・門前町に関する史料調査ならびに現地調査を実施した。

#### (2) 近世京都都市祭礼の空間特性の解明

朝廷が深く関与した祭礼、特に上・下御霊社、賀茂社、今宮社、北野社などの祭礼儀礼や祭礼行列に関する史料(神社、史料、公家日記などの史料)を収集し、その祭礼が行われた空間の特性を考察した。

その結果、天皇・朝廷が深く関わる近世京都の都市祭礼において、天皇や院の御見物を伴うとき、祭礼行列や風流が披露される場合は天皇や院を権力者とした社会構図を示すような演出がほどこされた空間として機能していたことが明らかとなった。特に、御霊社の祭礼行列においては、禁裏御所の南門前という特別な場所で祭礼行列や風流の天皇の御見物が行われることで、権力者・非権力者の構図がより顕著に示されていたことが判明した。

さらに、2009年度には、上記の特徴を都市史的視点から再考察することにより、禁裏御所周辺の築地之内とよばれる空間の特性を新たに定義することができた。これまで聖域として理解されていた築地之内は、決して聖域ではなく、天皇の身体を守りその性格を保つための装置を備えた空間であったことが分かった。そして、このような天皇権威を体験できるための「装置」が備えられた場の存在こそが近世京都の都市空間の特性のひとつであるといえる。

なお、これらの成果は、一部は書評のなかで紹介するとともに、現在、新たに学術論文としてまとめている。適宜、学会誌に投稿する予定である。

#### (3) 都市祭礼にみる朝廷と神社・町の関係性の解明

朝廷、神社、さらには町・氏子・町人らの都市祭礼に対する認識を明らかにするために、特に天皇・院・女院崩御時に発令される触穢令下において開催が計画された都市祭礼の様相に注目した。

近世において、天皇等が崩御した場合、朝廷から触穢令が出されることで、基本的に神社の神事・祭礼は停止される。これは、触穢令が京都という都市空間すべてに適用されるためである。

実際、近世初期には、特に朝廷と関係の深い神社の境内は閉門等で視覚的にも隔離されるようになり、都市祭礼や神社の神事は停止されていた。しかし、近世中期になると、清浄空間(内侍所)を確保するための対応が朝廷から神社側に求められる一方で、一部の神社では境内に清浄空間を確保しつつも神事・祭礼の実施が計画されるようになる。このように、朝廷側の都市空間認識を尊重しつつも神社や氏子らが祭礼を実施しようとする背景には、各神社の利益や氏子等の都市祭礼の開催要求が考えられる。この成果の一部は、2008年度に論文・学会発表にて発表した。

また、2009年度の研究において、同じ京都の他の神社等の動向に配慮しつつ各自の利益を優先する理論を確立することで、触穢令下でも都市祭礼の催行を検討していた事例をより多く確認できた。都市祭礼は、朝廷だけでなく、神社・町のためにも自らの権利や存在を示すために必要不可欠な行事・空間であったことがより明確となったといえよう。

よって、この成果も含めて、現在論文として学会誌への投稿準備を進めている。

#### (4) 研究支援データベースの構築

上記の研究をすすめるにあたり収集した資料を整理し、適宜データ入力を行った。都市祭礼に関しては社会史学や美術史学・民俗学からも分析がすすめられていることに考慮し、建築史学・民俗学・社会文化史学・美術史学・宗教史学等、幅広い分野の資料を収集し、データ入力をすすめた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文](計4件)

岸泰子、書評 杉森哲也著『近世京都の都市と社会』、年報都市史研究、審査無、17巻、2010年142-146頁

岸泰子、天皇の葬送儀礼と近世都市京都、日本建築学会都市史小委員会シンポジウム・都市と建築シリーズ「水平と垂直」、審査無、2008年、15-20頁

岸泰子、承応度・寛文度内裏造営と非蔵人-稲荷目代・非蔵人羽倉延重の活動を中心に-、朱、審査無、51巻、2008年、175-182頁

岸泰子、近世禁裏御所と都市社会-内侍所参詣を中心として-、年報都市史研究、審査有、15巻、2007年、42-55頁

##### [学会発表](計1件)

岸泰子、天皇の葬送儀礼と近世都市京都、日本建築学会都市史小委員会シンポジウム・都市と建築シリーズ「水平と垂直」、2008年12月17日、日本建築学会建築会館

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

岸泰子 (KISHI YASUKO)

京都大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号：60378817